

産官学連携活動 (2018年度)

1. 地域に根ざした生涯学習等に関する産官学連携事業

1) 官学連携

■ 公開講座

上尾市教育委員会・さいたま市教育委員会の共催「公開講座」は、2018年度は、5/12－7/14全10回、5講座開講。地域住民、のべ253名受講。

■ リカレント教育講座

埼玉県福祉部と本学の協定による高齢者を対象とする授業科目の開放は、2018年度も実施。受講者は両学期合わせて57名。

■ 学習支援活動

さいたま市教育委員会と本学の協定により、2010年度より「教員を目指す学生による学生活動支援」を開始。本学学生をさいたま市立小学校に派遣。2018年度の派遣学生はアシスタントティーチャー2名。

■ 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

本学、日本薬科大学、埼玉県教育局、上尾教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会で組織された子ども大学 あげお・いな・おけがわ実行委員会が主催する子ども大学は小学校4～6年生まで違う学校・学年の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で大学教員など専門家が分かりやすく教える。

2018年度は5・6年生を対象に9月1日(土)、8日(土)の2回を本学で開催し、計)115名が参加した。

2. 地方自治体との連携事業

2013年4月、地域連携・教育センターが開設し、さいたま市、上尾市、春日部市、岩手県釜石市を中心に地域連携活動を積極的に展開している。

■ 「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」について

2014年7月18日、埼玉県と「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」を聖学院大学及び、ものづくり大学と締結した。これは特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化に関する取り組み・研究について、相互に連携を図り推進するものである。具体的な事業概要は以下の通りとなっている。

・事業概要 高齢化が進む古い団地の活力を向上させるために、団地の一部を学生と子育て世帯向けの部屋に改修し、若い世代が入居するモデル事業を実施する。入居する学生や子育て世帯には自治会活動に参加してもらうことで、現在の入居者と共に支え合う「共助」の関係を築いていく。

・取り組み状況 本学学生が、2015年1月よりシラコバト団地に入居開始。2014年度末は2名だったが、2015年度は8名、2016年度は13名、2017年度は10名、2018年度は8名の学生が自治会活動に参加をしている。

■ 上尾市商工課との協働 ―上尾市内の運動施設(運動公園・武道館)利用者をターゲットに、おすすめポイントを発信するマップを作成

上尾市内の運動施設(運動公園・武道館)を訪れる利用者に対する「上尾らしさ」のPRという行政課題に対して、学生、外国人留学生ならではの多様なアイデアを提案できるなどの特性を生かし、A5版12ページ立ての冊子(マップを含む)に製作した。完成した冊子は、上尾駅頭においてスポーツ大会参加の学生にゼミ生が手渡して情報発信に努めるとともに、冊子の活用を促進するため、冊子と連動する、インスタグラム上でのフォトコンテスト『素晴らしい“上尾”を発見しよう!』を立ち上げた。

3. 地域産業界との連携事業

■ これまでの活動の経緯の要約

さいたま北商工協同組合との連携が行われ、2012年度からさいたま北商工協同組合の事業計画書に聖学院大学のインターンシップ事業の実施が組み込まれた。毎年継続的に学生の受け入れを実施している。

■ 成果事例における雇用・経済効果、社会的意義等のインパクト

同商工協同組合の事業計画になることで、本学の就業力の学修の場の拡大、また地元企業にとっても本学の学生の採用とのマッチングが期待できる。

■ 産学連携のきっかけ

同商工協同組合は、本学地元経済団体である。同団体主催の地域活動に、学生や教職員が積極的に参加することなどにより、関係の強化を図ってきた。

以 上